令和 8 年度　第 10 回青森市子ども会議

１　日　　時　令和 8 年 10 月 17 日（土）9 時 30 分～12 時 30 分
２　場　　所　青森市役所　本庁舎 3 階　会議室
３　出 席 者　子ども会議委員 6 名、事務局 3 名
４　活動内容　（1）青森市民図書館の展示タイトルについて
（2）グループ活動
（3）子どもの権利に関するパネル展の展示物の作成

５　開催概要

最初に全員で図書館の展示タイトルについて話し合った後、工場見学のため北洋硝子を訪問し、最後に、子どもの権利に関するパネル展の展示物の作成を行いました。

青森市民図書館の展示タイトルについて

青森市民図書館で 10 月 31 日(土)～11 月 26 日(木)まで開催予定の、子どもの権利に関する展示のタイトル決めを行いました。事前に各自で案を考え、どの案がよいか一人ひとり意見を出し合った結果、「自分だけじゃない　みんなにあるよ　～子どもの権利～」という案が人気でした。さらに、ほかにもたくさんのよい案が出ていたことから、それらを言葉も取り入れ、「自分だけじゃない　みんなにあるよ　可能性　～子どもの権利　未来へつなごう～」としてはどうかという意見が出ました。最終的にみんなの賛同を得て、このタイトルに決定しました。

グループ活動

こども・若者グループでは、フォーラム後の活動として「こども・若者が楽しく活動できるイベントを企画・実施したい」「伝統工芸品を PR したい」という意見がありました。そこで、今後の活動のヒントを得るため、青森県の伝統工芸品「津軽びいどろ」を製造している北洋ガラスの工場見学に伺いました。

はじめに、職人さんの作業の妨げにならないよう、2 グループに分かれて工場を見学しました。原材料や配合へのこだわりについて説明を受け、原材料から製品まで自社で製造しているため、一つ一つ異なる表情のガラス製品が生まれることを教えていただきました。次に、ガラスを溶かす窯や、色とりどりのガラスの原料を見せていただきました。その後、実際にガラス製品を作っている作業場を見学しました。作業場は、ガラスを溶かすための高温の熱でとても暑く、職人さんが一つ一つ丁寧に製品を作り上げていく様子を間近で見ることができました。さまざまな技法を使ってガラスを成形する職人さんの技術を目の当



たりにし、そのすごさを実感しました。また、伝統工芸品として製品を送り出すために、厳しいチェックをクリアする必要があることも学びました。誇りと責任を持って仕事に取り組んでいることを知ることができました。



工場見学の後は、青森マイスターから講話をしていただきました。津軽びいどろが青森県の伝統工芸品であることをはじめ、製品にはさまざまな種類があり、それぞれに技術の難しさがあることや、職人になるためには高い技術が必要であることを学びました。また、製造過程で生じた不良品も活用していること、さまざまな企業などとのコラボレーション商品を作っていること、県外でも販売されていること、海外の美術館にも作品が展示されていることなど、津軽びいどろの多くの魅力を知ることができました。

最後に感謝の気持ちを込めて、子ども会議で作成した「けんりはかせ」が描かれた缶バッジをプレゼントして、工場見学を終了しました。

会議室に戻った後、今回の活動で学んだことや感じたことを振り返り、今後の子ども会議の活動にどのように生かしていけるかについて考えました。今回学んだことを、今後の活動につなげ、引き続き活動に取り組んでいきたいと思います。





子どもの権利に関するパネル展の展示物の作成

青森市役所の駅前庁舎１階にある駅前スクエアで、11 月 2 日(月)～11 月 6 日(金)まで開催予定の、子どもの権利に関するパネル展の準備を行いました。パネル展では、子ども会議や子どもの権利相談センターについて紹介する模造紙などを展示する予定です。みんなで作業を分担し、模造紙の下書きやレイアウトを決めました。次回は、完成に向けて作業を進めていきます。

